

タイトル:「ちょっといっぷく」スタート

里山自然学校こまつ滝ヶ原で準備してきた「ちょっといっぷく」が、9月26日にスタートしました。里山食堂での食事の前の15分間を利用して、参加された40名の方々に楽しんでいただきました。

●「ちょっといっぷく」ってなあに？

登山や里山食堂などイベントに来られた方々にお茶でも飲みながら、滝ヶ原地域に関連するお話を気軽に聞いて、ゆっくりとしたひと時を過ごしていただくことを企画しました。

コロナとの戦いの中で感じたのは、これはあまりにも過剰な豊かさを求めすぎた“つけ”なのではないか、本当の豊かさは地道な毎日の暮らしの中にあるのではないかということでした。この場を通じて、多くの方々とお話し懇談することによって、都会では味わえない地域・ふるさと里山の良さを分かち合いたいと思いました。そして、滝ヶ原のことを多くの方々に知っていただき滝ヶ原ファンが増えることを願っています。

●話題として次の3つを取り上げていこうと計画しています。

①滝ヶ原地区の歴史や文化、人々の暮らしを自然学校メンバーが広くそして深く紹介します。

滝ヶ原石橋は何故落ちないか？      鞍掛山を舟見岳と言うのはどうして？  
トンボ公園の生きものたち      ふるさとの歌 誕生秘話 など

②さらに、専門家を招いて滝ヶ原地区にまつわるこぼれ話を紹介していただきます。

弥生人と碧玉      ビオトープの生き物たち  
北前船の船頭さんの暮らし      鞍掛山の絵の紹介とこぼれ話

③滝ヶ原地区で活動を始めようとしている若い人達の活動を紹介します。

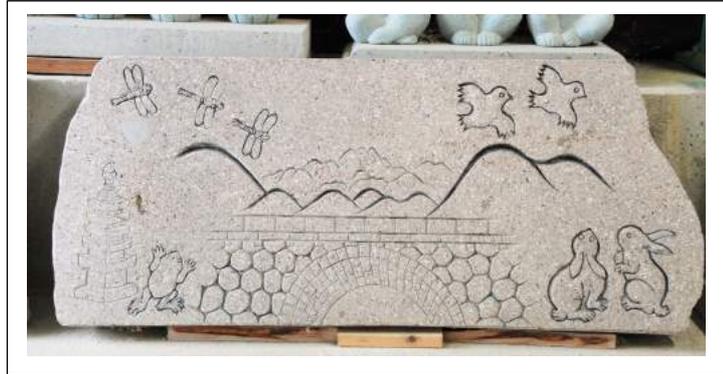
薬草栽培の紹介      無農薬栽培と有機農業  
小松におられる外国人のふるさとのお話し      ファーマーズマーケットのエピソード



第1回 ちょっといっぷく      中谷さんと石材工芸彫刻

\*\*\*\*\*

- 第1回は中谷篁さんをお招きして、石材工芸彫刻のお話の話をさせていただきました。  
石材は重くて運べないので、山下豊さんから事前に写真に撮った中谷さんの素晴らしい作品の数々の紹介がありました。八幡神社の鳥居の風景、石橋やカエル君の彫刻などたくさんありました。



里山の風景の石材彫刻

ハート型に削った各地の石を中谷さんの自宅からお借りして、皆さんに実際に目で見て、手で触り、重さも感じていただきました。 那谷・西山・滝谷・観音下・上山・大杉・戸室(金沢)・笏谷(福井)・菩提9ヶ所からの原石です。



各地の石材

そして、最後に中谷さんから「長い間この仕事をしてきて、日本遺産 こまつ珠玉と石の文化 として認定していただいたことに感謝している」とご挨拶がありました。

- 参加者からの感想をお聞きました。  
地元那谷地区だけでなく、山代・辰口・野々市からもたくさん来られていました。これまで石のことはあまり知らなかったけれども紹介してもらって、いろいろの石があることや、色も重さも違って面白かったとの意見が寄せられました。実際石に触って写真に収めておられる方も見受けられました。食事の後に中谷さん宅まで行って、沢山の作品の実物を見て感動されている4人組のおかあさんたちの姿も見られました。

\*\*\*\*\*

このようなお話をこれからも続けていきたいと計画しています。自然学校スタッフも頑張りますので、みなさんの応援をお願いいたします。

皆さんこんにちは。本日はこの場所にお招きいただき本当にありがとうございます。金沢から来ました西村瑛人です。

僕は今年中学生になったのですが、今年で滝ヶ原に通い続けて早6年になります。その6年間には、様々な生き物の発見などの経験、笑顔で僕に接してくれた素敵な方々との出逢いがありました。

ある夏、僕の弟たちを滝ヶ原に呼び、自然学校に宿泊し、川遊びや虫捕り、魚釣りをした思い出もありました。また、早朝、あるいは夕方にトンボの楽園に行きギンヤンマなどの“黄昏飛翔”を間近でみたこともありました。他にも、トンボの観察を始め色々な経験を頂いた滝ヶ原と滝ヶ原の方々に改めて感謝申し上げます。

さて、それは僕が小学5年生の6月、もう蒸し暑い陽気がやってきた夏のことでした。福井の親戚が良い場所と勧めてくれた場所に行きました。そこは、福井県敦賀市の中池見湿地です。ラムサール条約指定湿地で、現地NPOが管理しています。そこで開かれたトンボ観察会に参加させていただきました。会は順調に進み、終了しましたが、終了直後待ち切れず近くの池に行きトンボを捕まえようと試みました。そして、僕はメスのギンヤンマを捕らえました。オスとの交尾後で翅や体がボロボロでした。可哀想とは思いましたが、体の色が何かとっかかりを覚えました。ちょうどトンボ観察会の講師である和田茂樹氏がNPOの方とお話しされていました。先生にギンヤンマを渡すと、頭部の模様をみた瞬間顔が変わり、興奮してこれはギンヤンマとクロスジギンヤンマの交雑種であることを教わりました。この発見は福井県初、日本8例目の記録になりましたが、更なる確証を得るため、二橋亮氏にDNA鑑定を依頼しました。結果、交雑種であることが確かめられました。

長々と話しましたが、この発見はこの滝ヶ原のおかげだと自分は思っています。滝ヶ原でトンボを追いかけ、経験したことがこの発見につながったと思いますし、本当に多くのことを学んだと思います。

今までに滝ヶ原で初めて見た生き物はかなりいます。トンボではムカシヤンマ、ムカシトンボ。希少なハッコウトンボ。沼にいる多種多様なゲンゴロウやコオイムシなどの水生昆虫。カワセミの翡翠色の体。アカショウビンの鳴き声と真っ赤な体。フジバカマに集まる美しい蝶たち。その中にあのアサギマダラの姿もありました。他にもハンミョウや絶滅危惧種であるホトケドジョウなどがこんなに滝ヶ原にはいます。これは素晴らしいことだと思います。

更に素晴らしいのは、外来生物の影響がほとんどないことです。ラムサール条約指定湿地である中池見湿地でさえもアメリカザリガニやミシシッピアカミミガメ、クサガメなどの影響を受け、外来生物駆除に時間を費やしていました。

僕は、この素晴らしい滝ヶ原を知らない人、次の世代にもぜひ見せたいと思います。滝ヶ原は永遠に僕の憩いの場です。ご清聴ありがとうございました。

本日は、僕が制作したトンボの標本などを持参しました。それから僕の祖父が制作したトンボの10倍の模型も持参しましたので、どうぞご覧ください。また、何か聞きたいことがあればぜひ聞いてください。分かる範囲で答えます。

\*\*\*\*\*

### タイトル：「第3回 ちょっといっぷく 滝ヶ原石の採掘」

今回は滝ヶ原石採掘販売の家業を継いで五代目の荒谷雄己さんをお招きして、滝ヶ原町在住の加藤章子さんとの対談でした。石の採掘に使う大きなつるはしも見せていただきながら、仕事への情熱とこれからの新しい用途開発についても語っていただきました。参加された38名の方々は聞き入っておられ、また熱い応援もいただきました。

—雄己君のことは幼いころからよく知っているの、ゆうきくんと呼ばせていただきますね。早速ですが家業を継いでみてどうでしたか。

荒谷商店は創業100年を超えて石材業をしてきていて、おじいちゃんが4代目、私は5代目にあたります。大学生の頃に、おじいちゃんから家業を継いでくれないかとの話があって受け継ぐ決心をしました。今年10年目で32歳になりましたが、最初は右も左もわからず、山に入って石を切り出して加工するという職人としての孤独と戦いです。大学の際は友達にも囲まれてにぎやかに過ごしたのですが、そのギャップの大きさに逃げ出したいくらいでしたよ。でも、少しずつ仕事を覚えてきて、お客さんに納めそしてご満足いただいた声を聞いているうちにやりがいのある仕事だなと思うようになって今まで続けてこれています。

—仕事を続けて来られて、うれしかったことや、やってよかったと感じる時はどんな時ですか。

今まで眠っていた石を切り出して、石に陽が当たり、新たな世界へ飛び出すという石を切り出す瞬間は楽しい時間です。お客さんから床や壁に石を張って「きれいになったね。ありがとう。またお願いね」と言われた時は、やっぱりいいなあとかうれしいなあと感じます。

—なるほど。今日は写真で沢山の施事例を紹介させていただいています。どれか思い入れのあったお仕事はありますか。

そうですね。滝ヶ原石は昔から墓石や灯籠とか鳥居に使われていましたが、水に強く軟らかい石なので加工しやすいので、時代とともに近年は板状にして建築用として使われています。5年ほど前に、ブルーボトル品川という東京品川駅構内にある大勢の人が利用している大きなコーヒショップですが、その床材や壁材としてサンプル送ったら全国の中から選び抜かれました。それ以来県外からの仕事も多くなりました。僕も2年ごとくらいに訪問するんですけど、人がいっぱい

です。木場潟ラーゴビアンコは近くですし、滝ヶ原カフェはこの先です。おいしいコーヒ出しますから是非立ち寄ってください。栗津温泉交流広場では足湯もありますからみなさんお出かけの際は「ああ、あの人が言っていたやつや」と思い出して見ていただけるといいですね。 (ああほんとか!の声)

—コロナがおさまったら是非みなさん東京へも出かけてみてください。それでは、現在手掛けている仕事を差し支えなければ紹介してくれますか。

奈良県の明日香村では、6月から山型のでっかい古代古墳の再建が進んでいて、そこに滝ヶ原の石材が使われることになりました。大変光栄なことです。(注：牽牛子塚古墳(けんごしづかこふん)は「あさがおつかこふん」とも呼ばれ国の史跡に指定され、天智・天武天皇の母とされる第37代斉明天皇の陵である可能性が高まっている)

また、新幹線の小松駅の柱用の石材としても計画されているんです。このような古墳や駅での大きな仕事は、ずっと将来に残る仕事ですからありがたい話です。

—みなさん机の上に見えますか。今日は、ゆうきくんに採掘に使う道具を持ってきていただいています。ちょっと説明してくれませんか。

これは石を切り出すときに使う「つるはし」というんです。もう100年以上経っていますが今も現役で使っています。先端は炭で焼いてカンカンと打って鍛冶屋さんみたいな事も出来ないといけません。こっちは石を起こすときに使う「くさび」ですが、この柄は椿で出来ています。椿はしなやかでいいのですが(さっき変な持ち方をして折っちゃった(\*^o^\*)) おじいちゃんが生えているところを覚えてくれなかった。これらの道具は昔の人の知恵です。



みなさんが石の話に引き込まれた対談



ブルーボトル品川で好評の滝ヶ原石

結構重いです、後で持ってみてください。

—滝ヶ原石は平成28年度に日本遺産に認定されましたが、どんなところが魅力ですか。今後の目標はどうでしょうか。

石は見た目は同じように見えますが、凝灰岩には粒々や水晶なども入っているので同じ模様の石はないんですよ。(注：凝灰岩は水中で砂・粘土・火山灰など積もったものが押し固められた堆積岩の一種)

そんな石の表情がとても面白い。きれいな表面ですから最近お寿司屋さんのテーブルにも使われています。目標と書いていいかわからないですが、このように石を身近く感じてもらい、滝ヶ原石があふれるというか親しみのある石になってもらえように頑張っていきたいです。



今でも現役のつるはし と くさび

—みなさん、おなかもすいてきていると思いますが、是非聞いてみたいことはありませんか。

・・・石の厚さってどれくらいですか。

床などでは人が乗っても割れないように25ミリ程度ですが、壁などでは15ミリほどの薄さです。  
(な～るほど) 加工しやすいので建築屋さんから指定された厚さで注文をいただきます。

・・・最初に資格を取ったと言われましたが、どんな資格ですか。

山を切って石を切り出す間屋の仕事も兼ねていますから、業務管理者としての国家資格がいます。この資格がないと石をとることは許可されないのです、おじいちゃんから「この仕事をやるなら最初に資格をとれ」と言われたので真っ先に勉強しました。

—それでは、みなさんありがとうございました。ゆうきくんもありがとう。おいしい里山食堂の昼食をいただいた後、施工の写真や道具なども自由に見ていただければと思います。 \* ▽ / ♡ ☆ ♡ ♡ ♡

\*\*\*\*\*

## タイトル：「第4回 ちょっといっぶく おいもさん OIMOSAN をつくろう」

今回は「家族野菜 tsugutsugu」と屋号を掲げて、無農薬農業や地域の子供達と一緒に学び遊ぶ活動をされている北出高嗣さんをお招きしました。採れたての野菜や子供たちの描いたペンキ絵を見せていただきながら、「町をおもしろくしたい」という想いを語っていただきました。

今から6年前広告営業のサラリーマン生活をしていたのですが、「自分を育ててくれたふるさとで里山を生かした仕事が出来ないかなあ」と思い立ちました。農業の担い手が不足してくる中で、石川県の研修を受けながら、近所の岩上町で定年退職され有機農業の認定を受けられたお師匠さんについて2年間農業の勉強と修業をしました。一人ではじめましたが、今は定年退職した義父が金沢から来てくれたり、コロナで暇なので母や母の姉も手伝ってくれて、植え付けや収穫を4人で頑張っています。商売としては正直言って厳しいのですが何とかやりくりしています。



身近な話題に興味津々

子供や家族に笑顔で差し出せるものを作りたいという信念があります。安全して食べられること、野菜の美味しさや栄養がちゃんと味わえることを目指しています。そのために、農薬や除草材、化学肥料、消毒剤などいわゆる化学肥料を一切使わない無農薬農業です。草も手でむしっています。肥料には、ボカシ肥料といって魚かす、米ぬかを中心として、油かすなど半年間寝かせて発酵させて味噌状にしたものを使っています。そうですね。年間60種類以上の野菜を作っています。大根だけでも10種類あります。これは紅芯といって紅い色をしていますそのままサラダで食べられます。これは黒色ですが辛みがあってソテーするとホコホコした味がします。ニンジンも白・黄・紫・金時色もあります。

(注：以前いただいた白ニンジンそのまま食しました。本当の味が口の中に広がりました 笹原)

こういった野菜をまるごと、皮ごとボリボリ食べられるようにしています。里芋やインゲン豆・夏野菜など季節の野菜がいっぱいで、年間通して出荷できます。特に紅はるかというサツマイモにはこだわっています。OIMOSANと名付けました。連作障害も無く限られた土地でも毎年育てられます。岩上町の耕作放棄地を活用しています。芋を掘ってすぐ食べるよりも寝かせておくと澱粉が糖に変わり甘さが増してきます。オイルヒータを入れ13～15℃くらいに保って、貯蔵庫（家の蔵）に2トンぐらい入れています。来年5月ごろが一番おいしいでしょう。



とれとれの無農薬野菜

野菜はスーパーには卸してなくて、飲食店やレストランに直接自分で持っていったり、一般のお客様には箱詰めして宅急便で送ったり、予約いただいて中海まで取りに来ていただいています。去年から木場道の駅でも販売を始めました。ここからすぐ近くの滝ヶ原カフェでは土・日のファーマーズマーケットに野菜を持って行って販売してみなさんに喜ばれています。

農業を始めたきっかけは、前の仕事も好きだったのですが、子供が生まれた時に「夜遅くまで仕事をし家族が集まってご飯を食べるのは週1回ぐらいという生活を見直したい」と思いました。それなら小さいころ育った田舎で農業をしようと思い、生まれ育った小松へ戻ろうと決意しました。今振り返ってみると金沢にいた頃よりも子供達と一緒に過ごす時間も増えて、こんな地域の人とも仲良くしていける環境もいいなあと思えるようになりました。

田舎は何もないというイメージが強いのですが、町をおもしろくしたいという思いから、友人たちとイベントも企画して定期的に関けないかと話しあいました。今年はいろいろ計画したのですがコロナで中止せざるを得ませんでした。昔遊んだお寺さんの境内で地元の人や他からの人が200～300人集まりました。このお寺イベントでは、近所のおばちゃんに折り紙教室を開いてもらったり、シェフに中海

のお野菜をつかったスペシャルごはんをつくっていただいて提供したり、おもちつきをしていただいたり盛り上がりました。いこいの森でもアウトドアキャンプもやっています。遊泉寺温泉の向かい側にある自分の農舎の広場を利用して無農薬米を食べ焼き芋をふるまったり、ポップコーンを食べました。滝ヶ原の友人に手伝ってもらって、不要になった布をもらってきて、子供達には汚れてもいい服装で来てもらい足の裏も手もペンキだらけになって絵をかいたり、家から布を持ってきてカバンを作ったりしました。

畑で野菜の葉っぱでサラダを作ったりする農作業の体験も好評です。NORA NORA CLUB（ノラノラクラブ）と名付けています。ゆるく楽しむ野良あそびの日です。

（注：昔の言葉で、野良仕事とは草取りや土地を耕したりする野に良い仕事という意味だそうです）

土に触れ、季節の野菜やおやつを食べてもいい。焚火を眺めて、ぼーっとしているだけでもいい。のんびり長閑な中海で健やかな1日をすごしてもらおうと思っています。中海町は田んぼをやっているのは70歳以上で5人、岩上町は7世帯20人と人口も減ってきております。農地を生かし、新しいものを作りあげたり、子供達とも楽しめる環境を作るのはいいなど、元気なまちづくりを目指しています。



シャガールも顔負けの子供たちのペンキ絵

\*\*\*\*\*

タイトル：「第5回 イノシシの話」福岡大平さん

イノシシの生態について

- (ア) イノシシは体長が 1.2m から 1.7m に成長し、体重は大きいものだと 220 kgある
- (イ) 世界のイノシシでは体長 2.8m、体重 470 kgに達する個体も存在する
- (ウ) 世界中に生息しておりヨーロッパやアジアはもちろんのことアフリカ・アメリカ・オーストラリア大陸にも生息している
- (エ) 速力は 40 kmほどで、人類最速のウサイン・ボルト選手が最高時速 37 km
- (オ) 泳力は時速 4 kmほどで 20~30 km泳ぐことができる
- (カ) 跳躍力は、助走なしで 1.2m を飛び越えられる

2. イノシシとブタ

- (ア) イノシシを家畜化したものが豚であるためある意味共生した結果ともいえる

3. 十二干支とイノシシ

- (ア) 十二干支の順番は 1 月 1 日に神様のいる宮殿へ挨拶に行った順番
- (イ) イノシシが 12 番目になった理由は、最初に宮殿前まで到着したが走る勢いがすごいため（猪突猛進）宮殿で止まることができず通りすぎてしまい、引き返した時には 12 番目になってしまったため

4. ジビエ施設と共生への道

- (ア) イノシシの生息エリアはグループによって異なり、奥山に住むものと里山に住むものがある、主に鳥獣被害をだしているのは里山エリアに住むイノシシである。そのため、里山周辺の民家や畑の近くに檻罠を設置して捕獲している。今までは、廃棄されることが多かったが、ただ捨てるのではなく地域の方々から好まれるような特産品にしようということでジビエへの活用を行う取り組みが行われております
- (イ) 共生の道への答えは、まだ見つかっていないが様々な知見の方々が集まって考えていくことでより良い道が見つかるよう頑張っていきます

5. Q&A

- (ア) イノシシは大雪が降る地域には生息しないというのは本当か

- ① この話の元になっているのはとある論文であるが、その論文は東北におけるイノシシの生息の有無についての調査を行ったものである。マタギ（猟師）の方々に対してアンケートを実施したがイノシシは生息していないという答えであった。しかし、実際には東北にもイノシシが生息していたとされる。なぜマタギがイノシシはいないと答えてかといえば、これは推察になるが、よそ者（研究者）に自分の猟場を荒らされたくないためと考えられる。

- ② 上記の研究の際に、イノシシの生息域の境界線と積雪量が多い地域（豪雪地域）の境界線が似ていたことからイノシシは豪雪地域には生息できないという説が広まった

- (イ) モグラが多く生息する畦道をイノシシが掘っているがあれはモグラを食べているのか

- ① その可能性は十分考えられる。イノシシはモグラも食べることもある。

- (ウ) ブルーの紐がイノシシの被害防止に効果があるというが本当か

- ① 基本的に鳥獣対策忌避グッズは、短期的には効果があるが長期的に効果を発揮し続けるものはほとんどないため、ブルーの紐も効果は持続しないのではないかとと思われる

\*\*\*\*\*